

名古屋市歴史文化基本構想

私たちのまちの文化財「知る」「伝える」「活かす」 (案)

に対する市民意見の内容及び本市教育委員会の考え方

名古屋市歴史文化基本構想 私たちのまちの文化財「知る」「伝える」「活かす」(案)に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見とそれに対する本市教育委員会の考え方を公表します。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますので、ご了承ください。

平成 29 年 3 月

名古屋市教育委員会
生涯学習部文化財保護室
電話 052(972)3268
FAX 052(972)4202
電子メール a3268@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

実施結果

ア 実施期間 平成 29 年 1 月 19 日（木）～2月 17 日（金）まで

イ 配布場所 市民情報センター、区役所情報コーナー、支所 など

ウ 提出状況 意見提出者数 26 人
意見件数 101 件

エ 提出方法 郵送 2 人 FAX 7 人 メール 16 人 持参 1 人

オ 意見の内訳

項 目		意見数
1 歴史文化基本構想に対する意見	(1) 全般について	15 件
	(2) 構想の方針について	3 件
2 名古屋の文化財に関する意見	(1) 名古屋の魅力ある文化財	10 件
	(2) 文化財との関わり・体験	4 件
3 文化財活用の方策に対する意見	(1) 文化財活用の方策に対する提言	21 件
	(2) 世代ごとの活用	10 件
	(3) 史跡整備等に関する意見	8 件
	(4) 文化財と社会の関係	2 件
	(5) 文化財の継承に関する意見	7 件
4 名古屋市の役割についての意見	(1) 名古屋市の取り組みに関する提言	10 件
5 その他	(1) 記述・表記に対する意見	11 件
合 計		101 件

1 歴文化基本構想に対する意見

(1) 全般について (15 件)

- 名古屋の歴史と文化財の特徴や調査の歴史などがよくまとめられている。
- 「名古屋を代表する文化財」については、読んでいて楽しかった。
- 「名古屋を代表する文化財」だけでなく、「身近なまちの文化財」にも光をあてるというのが素晴らしいと思った。
- 「歴史文化基本構想」を策定したことに、心から敬意を表したい。微力だが、お手伝いしたいと思う。
- 「知る」「伝える」「活かす」という方針とともに「見いだす」という視点をさらに強調したい。専門家による調査のほかに、価値や意味を発見する、という体験を市民として共有したい。「住民による歴史の発見」というすばらしさを想像した。
- 名古屋の文化財を地域（エリア）ごとに特徴づけし、「知る」「伝える」「活かす」取り組みは不可欠なこと。優れた取り組みであると思う。
- 文化財について価値の高い建造物や工芸品等だけでなく、身近なものにも目を向けて保存しようという視点は素晴らしい。
- とても充実した内容で興味深いものだった。
- 内容はとても意欲的でいいと思う。資料はとてもおもしろくてよかった。
- 興味深く読ませていただいた。内容的には、現状や特徴について多くのページがさかれており、解説書的に読み進めることができた。
- 身近なまちの文化財は、身近にありながら、その伝統が途絶えることですぐになくなってしまうものが多いかと思う。名古屋市の歴史文化基本構想が日本各地でおきている地域の文化財の継承や、伝統文化の消滅をくいとめる良い事例となって欲しい。
- 名古屋市に育ったことを誇りに思う子ども達が育てて欲しい。「だから伝える文化」、「モノづくりが繋ぐ文化」の項目がとてもよかった。

【教育委員会の考え方】

- ・多くの方に、構想や名古屋の歴史文化の魅力について、興味関心を持っていただけるきっかけとなる構想にしていきたいと考えております。この内容をさまざまな皆さまと共有していけるように、取り組んでまいります。
- ・「身近なまちの文化財」を、市民の皆さまと協力しながら発掘し、共有できるように各種事業を進めてまいりたいと考えております。

(2) 構想の方針について (3 件)

- 「はじめに」にもまとめられているように、地域の文化財をどのように保存活用していくのかという部分が少なく、また文字でまとめられているため、具体的にイメージしづらい。
- モノやコトについて書かれているものの、これから何をどうしようとしているのか、具体性に欠けるように思う。

【教育委員会の考え方】

- ・広く文化財をとらえて「身近なまちの文化財」を市民の皆さまに知っていただき、関わりを持っていただくことにより、地域社会全体で文化財を支えていくことが実現できるように取り組んでまいります。
- ・策定の過程で作成した文化財リストをもとに、市民の皆さまと協働し、市内の文化財の価値を明らかにしていく取り組みから進めてまいります。

2 名古屋の文化財に関する意見

(1) 名古屋の魅力ある文化財 (10 件)

- 名古屋には東京・大阪と違って、坂にほとんど名前がない。坂の名前は、街への愛着を育む第一歩だと思うので発掘してほしい。
- 天然記念物に対する取り組みの記載が名古屋城のカヤなどに限られている。市内には湿地やため池に生息している希少で貴重な植物などもある。
- 伊藤若冲も少し前は誰も知らない絵師だった。名古屋にも、若冲に負けない絵師、山本梅逸がいる。優麗な花鳥画は高く評価されている。ぜひ積極的に PR してほしい。
- 「山崎川の桜」は、財団法人日本さくらの会から「さくらの名所 100 選」に認定されてもおり、今年 2 月には地域限定で、52 円切手にもなった。
- 第二次世界大戦に係る戦争遺跡の例が取り上げられていないのが残念。旧第三師団の塀や高射砲台座など、今だからこそ保存できるものも多い。
- 名古屋は母なる流れ庄内川と共に過ごしてきた。交通の要所、東国の入口でもある。この土岐川&庄内川をテーマにした土岐川学を研究テーマにすべきではないか。
- 昨年、今年と 2 回、瑞穂文化小劇場で「催馬楽桜人 桜人保存会」の方たちによる公演があった。津賀田中学には名古屋で唯一和楽器部があり、子どもたちが「桜人」を歌い継いでいる。

- 中心的历史遺産としては名古屋城と熱田宿、熱田社とを位置づけ、両者を結ぶ道路、景観、飾り付けを整備する。それによって人は名古屋の歴史と深みに思いを馳せる。都市には中心があって、例えば西の門とかあるように、そこから向かって燈籠が立ち並ぶなど、市内に入っていよいよお城に近づくという臨場感が与えられる。
- 尾張氏の時代には市内の外郭寄りに経済文化圏があり、それら遺跡、痕跡を当時を再現するような形でネットワーク化する。木曾川からの木材の出港地、岡崎、半田なども含む海運業の基地、東海道の宿場町、更に古墳、寺社など。
- 熱田社の遺跡は、例えば平泉中尊寺、成田山、金刀比羅宮などのように、修養的な施設というより庶民の日常に開かれた観光拠点みたいな陳列なら良い。

【教育委員会の考え方】

- 本構想でとりあげた文化財が、名古屋の歴史文化すべてを語るわけではありません。今回お寄せいただいた文化財に関するご意見をはじめ、今後も調査と情報収集を進め、関連文化財群として情報発信に努めていきたいと考えております。
- お寄せいただいたように、文化財と地域の皆さまの関わり方についても今後の活用の参考とさせていただきます。

(2) 文化財との関わり・体験 (4 件)

- 「尾張徳川家と武家文化周辺の文化財」：徳川美術館に親子で何度も足を運んだ経験があり、親しみがわいた。徳川美術館の「土曜子ども教室」は、子ども向けに毎月異なるテーマの体験型の内容のイベントが行われている。1年間、通ったが、名古屋の文化について知ることのでき、子どもにとって良い体験だった。
- 「熱田神宮に残された文化財」：結婚式・七五三など、自分の生活に根付いている神宮。とても馴染み深い。時々、境内のきしめんを目当てに友達と遊びに行くスポット。
- 「有松の町並み」：町並みはもちろんのこと、絞りの町として馴染み深い。自分が子どもの頃、子ども会行事などで、絞りを体験した記憶がある。現在でも、染色の工程も間近で見学することができ、染色時の暑さと熱さ、職人さんの大変さを感じられた。
- 「志段味古墳群など」：「埴輪作りイベント」では、古墳を歩く機会があり、楽しかった。やはり、机上の話ではなく、実際に体験をすることが楽しく、しかも家族で一緒に体験ができたことが今後の思い出になり、一生忘れない家族行事になった。埴輪の野焼きも見学させていただき、おもしろかった。

【教育委員会の考え方】

- ・文化財は難しいもの、近寄りがたいものというイメージがあるかもしれませんが、こんな見方がある、こんな体験が楽しかったといった意見も積極的に集めながら、身近に感じられる仕組みづくりを進めてまいります。

3 文化財活用の方策に対する意見

(1) 文化財活用の方策に対する提言 (21 件)

- わかりやすくおもしろいリーフレットが文化財に興味を引きつけることにつながる。
- 小中学校の社会の授業とリンクすればより身近に感じられるはず。
- マンガやイラストで、カラーの図版も使った冊子だと開いてみたくなると思う。
- 文化財についてあまり詳しくない人でも興味・関心が持てるような講演会が開催されるといいのではないか。
- 最近は、ネットやスマホでの情報発信が盛んなので、文化財の情報サイトができるといい。しだみちゃんが大好きなので、ツイッターなどでの情報発信を続けてほしい。
- 文化財の活用というと、魅力を出さねばと言う呪縛に捕らわれ、広告代理店等の助けを借り、祭りのようなイベント構想が並べられる。私は「静」と「動」の二面性があって、とくに「静」の面が忘れされがちだと思う。目で見える効果が無いことが原因だと思うが、精神や情緒に訴える「静」の政策こそ怠ってはならない。
- 文化財はアート：文化財には無形文化財の芸能も含まれている。音楽も踊りもアートの一部。肌で感じる和楽器、和太鼓演奏など聞いたり実際にやってみたりする。そうしたアートから文化財を好きになるきっかけも生まれる。文化財がおもしろいと感じられれば、大事にしようという思いも生まれる。アートとの相性の良さをもっと利用すべき。
- 名古屋が魅力のない都市ワーストワンから、ベストワンに転換するには先ず住民が魅力を感じ、その魅力ある歴史・文化を全国に大いに発信していくことが肝要。
- 活用あたって市民参加型イベントも含めてほしい。ウィキペディア・タウンなど。
- 身近なまちの文化財はなかなか人へ知らせるのは大変だ。マラソン等のスポーツイベント等と融合させることでPRできるような仕組みがあるといいのではないか。
- 地域の産業と文化財がコラボした商品開発等、知らない間に普及啓発できるような試みを率先して行ってほしい。
- 市民が文化財に興味を持ってもらうためには名古屋といえどこれ、という文化財を発掘することが大切。

- 名古屋城築城技術、山車・からくり文化などをものづくり文化としてもっと重点化し、観光的な意味でもアピールする。プレゼンテーション方法も工夫する。
- 教育現場での文化財を守る活動にも手をひろげてほしい。
- 活用の段階では、日本全体・または周辺地域に影響を与えた事柄を、子ども達にもわかりやすく強調した資料を作って欲しい。
- 街道や尾張藩領を通じて、名古屋から周辺各地に影響を与えた文化や影響を受けた文化などを市内で周知に努める一方、各地の市町村などとも連携することが望まれる。
- 名古屋の歴史はとても古い。したがって、同じ場所でも様々な時代の歴史が積み重なり、それらの証が残されているはずである。そこに住んでいる人々にとっては、その土地の歴史の積み重なりが大切。そんな視点から名古屋の歴史を活かしてほしい。
- 名古屋が今日、発展しているのは産業のお陰。そうした近代の産業遺産も重要な文化財だと思う。あの機械なら昭和の初めからあったよ。倉庫にまだある。そのための寄付ならOKということもある。他県の文化財行政と一味違う、ものづくり王国ならではの文化財活用が可能ではないか。
- お地藏様や馬頭観音、道標など小さな路傍の石造物などから、小さな街道の歴史が判明する。しかし、個人の土地に祀られているものがほとんどで、転居や相続などで消えたものも多い。例えば市博物館の庭園に移すなど、今のうちに手をうってほしい。
- 「なごや学マイスター」、「鯨城学園」卒業生など方々が、市内の小学校等で名古屋の歴史文化を分かりやすく解説する場を設けることにより、幼少の時期から、地域の歴史・文化に触れる環境を作り、地元の愛着心をもった人間への育成に繋がれば理想的だ。

【教育委員会の考え方】

- さまざまなメディアの活用等を通じて広く文化財の価値を発信できるように努めてまいります。
- 行政や所有者、そして地域にお住いの皆さま方が手を携えて地域全体で文化財を支えていけるように連携を図るとともに、他地域との関係を把握し、周辺地域と連携した活動も進めていきたいと考えております。
- 地域の皆さまに地域の文化財の魅力を知っていただき、情報発信していただくことが名古屋の魅力発信につながるものと考えております。

(2) 世代ごとの活用 (10件)

- 冊子を作成する場合には、より身近な取り掛かりから文化財を紹介した方が、子どもにとって読みやすいのではないかと。工夫しないと読んでもらうのが難しい。
- 物をさわったり、つくったり、体験型が子どもたちにとってうれしいのではないかと。
- 文化財を社会見学や遠足などのプログラムに位置づけ、意識改革をしてほしい。
- 「伝える」については、小中学生に向けた地域の文化財学習があがっているが、高校生、大学生に向けた取り組みもあってもよろしいのではないかと。
- 小・中学生が有名な文化財とセットで埋もれた文化財に触れる機会をつくることで、1学年に数人でも文化財が好きな大人に成長していけば、継承につながると思う。
- 小中学生向けのイベントは、参加者も多く、子どもたちも喜ぶと思うが、彼らにどのくらい地域の文化財に対する愛着なり関心なりが育ち、それが持続保持されか不確かだ。単なる遊び、長期休みや総合学習の宿題のネタで終わって、高校大学に進む頃には全く関心も無くなってしまう者もいるのではないかと。
- 高校、大学では専門的に歴史や文化を学ぶ学生もいる。ある程度の知識と関心をもつ学生を取りこむイベントなりボランティア活動などがあるといいと思う。
- 歴史や文化はともすれば文科系の学生しか興味をもたない傾向にある。文化財の背景となる科学や技術に着目し、文化財を保護するための技術や化学について学ぶ活動などを通じて、理科系の学生にもアピールすることができると思う。
- 歴史教育は小学校5～6年から始まるようだが、低学年から地元の文化財で残っているものを見たり聞いたり訪ねたりする名古屋市独自のカリキュラムを組むべきだと思う。そのためにも先生たちに地域の文化財を知ってもらう研修会が必要。

【教育委員会の考え方】

- ・小学校を中心に中学校、高等学校を対象とした学校教育との連携をめざしてまいります。
- ・ものづくりの歴史や自然科学など、文系、理系の枠を超えて地域を見つめる視点を大切にまいります。
- ・子どもたちが地域の歴史に接する機会を増やし、文化財を次世代に伝えていけるよう取り組んでまいります。

(3) 史跡整備等に関する意見（8件）

- 区内の標札に一連番号を付けたらどうか。区内、他区内の紹介等、一表にまとめ、パソコン、一覧表で記し、区役所、図書館などで、標札の多元化の活用を目指すべき。
- 遺跡・古墳の周囲には小高い丘があり、階段、手すりを設け、草刈りをするなど安全性を確保すべき。史跡現場の環境整備が必要。
- 名古屋市博物館の展示拡充（現在は名古屋市というより尾張エリアになっている）
- 私の住んでいる下町には、まちの由来や歴史を案内する看板がたくさんあり、名古屋もそうだろうかと思って歩いてみたが、意外に看板が少なかった。街歩きをしながら、看板を通してその街の歴史に触れることも「知る」ことになるのではないかと。東京の隅田川エリアのそれをお手本にすることを勧めたい。
- 名古屋城に関しては塀、北側の庭園も含めて完全復元すべき。
- 戦前の指定文化財で、戦災で焼失したものを復元してみたらどうか。

【教育委員会の考え方】

- ・これまで取り組んできた事業も含め、事業間の連携を深め一体感を高めていくように取り組んでまいります。
- ・史跡をはじめとした文化財の保存・活用などにつきましては、市民の皆さまのご意見をうかがいながら検討してまいります。

(4) 文化財と社会の関係（2件）

- 地域の歴史文化を深く探求する一方で、グローバル時代やその将来を展望した視点も大事。私たちの身近な歴史文化の中にある世界史的な要素、普遍的な価値、などに気づきたい。例えば陶磁器の遺物には東アジア文化との関係性。仏教文化には、インドや中国・朝鮮などとの交流背景があり、平等の救い、不殺生などといった人類の理想がある。グローバルとローカルの一対性は今日よく語られるが、これを名古屋市域の歴史文化に視点を捉えて、個性ある将来展望に結びつけることを提案する。
- 国が栄え発展するためには、資源、経済、軍事力などが優れていても、やはり文化力が大切ということ聞く。子供たちが育み、お年寄りが憩う魅力ある街とは歴史、遺産、伝統を大切に、それを心の拠り所に、礎とする文化力ではないかと思う。伝統ある民族性や遺産、民俗文化があって独自性が保たれ、魅力があり能動的な発展が図られる。

【教育委員会の考え方】

- 地域の歴史を見つめ直し新たな価値を見つけ出す事により、現在の名古屋の姿が浮かび上がり、魅力を増していくことを目指してまいります。

(5) 文化財の継承に関わる意見（7件）

- 「伝える」ことに関して、具体策に課題が多いのが予想される大災害への対応。確実に訪れる大震災に際して、仕組みをつくっておく必要がある。阪神・淡路や東北では、事後的ながら懸命の努力が経験として蓄積されている。この地域においても、それらに学びつつ準備することが、歴史文化を身近に実感した地域づくりになると確信する。
- 戦後の焼け野原から、それぞれが頑張って築いて来た名古屋。今も発展し続けている。しかしながら目先の損得で右往左往し、大切な物をどこかに置き忘れた事に気づくことも多い。いなくなってから気づく恋人。死んでからありがたみを感じる親。文化財も同じではないだろうか。今、かろうじて残っているものは大事にすべきだと思う。
- 名古屋には成功した企業が多い。反面、文化財に寄附する発想がない。特典が国の法体系だけでは不十分。もっと大きな特典を法人に対して出すべき。CSRに訴え、就職活動の企業選択の要因にする。そうした知恵こそ第一に考える方策だと思う。
- 伝統を守ることを優先させるがため、人の興味を引かないものになりつつある。現代のものとの積極的な融合があれば逆に伝統は維持されるような気がする。
- 文化財を活かしたフリーマーケット等を開催し、重要な文化財の維持できるような財源確保に努めてほしい。
- 基本構想の策定の中で、貴重な植物などの資料調査や環境局や学識経験者等の意見を聞いたり、現地調査をしてほしい。
- 基本構想に自然遺産となる天然記念物への取り組み姿勢をも取り入れてほしい。

【教育委員会の考え方】

- 文化財の継承を保持団体だけではなく、社会全体で幅広く関わり、担っていく仕組み作りを検討していきたいと考えております。
- 社会的資産の活用も含め、広く情報をあつめ、適切に文化財の保全が円滑に進むように取り組んでまいります。
- 記念物の取り扱いにつきましては、「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」に基づき適切に取り扱って参ります。

4 名古屋市の役割についての意見

(1) 名古屋市の取り組みに関する提言（10件）

- 名古屋には歴史遺産が残されているものの、そのイメージがない。それを解消するためにもまちづくり部局と密接な連携し、市民に歴史や文化を発信することが大切。
- 文化財の保存活用のための資金確保について、市が交付する補助金について言及するだけでなく、関係者がクラウドファンディング等を活用して資金集めを行うことに対し、セミナーの開催やアドバイザーの派遣など側面的な支援が可能なのではないか。
- 中川区には両端で祭りがあるが、中央にはない。名古屋郷土英傑祭りに集約されているなら各区や各町の枠で自由度が欲しい。
- 名古屋市は200万人都市と言われているのに、職員数が少ない気がした。
- 名古屋市の職員は、トップダウンで事を推し進めがちである。滋賀県の東近江市や守山市などでは、自治会組織が活発で、それぞれが知恵を出し合っている。市はそれぞれの活動に資金を援助する形を取っていて、守山市では伊勢遺跡をアピールするHPを市民自らが作成し、市はその資金を援助している。もっと、地元の本当にやる気のある団体に資金が流れる仕組みが必要だと思う。
- 名古屋市が潤沢な文化財を保有していることは基本構想からも理解できる。と同時に名古屋市周辺地域においても有数の史跡をはじめとする文化財が存在する。そこで名古屋市独自の活動とは別に、名古屋市がイニシアティブをとり、愛知県を中心とする、その周辺市町村と連携を密にした文化活動を推進していくことも重要だと思う。
- 市外在住者としての意見だが、見に行こうと思っても、交通費が割高な感じがする。メーグルや一日乗車券は、観光で使う気にはならない高い値段。せっかくのいい資料も、広く発信していくためには、アクセスも充実すべき。
- 守山区には神社仏閣、史跡が多くあるが、地下鉄が無く、市バス等は1時間に1～2本で他区から乗る人には十分な対応ではない。公共交通の充実が求められている。
- 上洛殿の狩野探幽の「雪中梅竹遊禽図」は探幽の最高傑作の一つ。探幽は非常に有名な（江戸狩野派の祖でもある）にも関わらず国宝に指定されているものがない。ぜひ上洛殿公開に合わせて国宝指定を働きかけてほしい。
- 文化財を保護する意識は必要に大事だ。それにより開発がストップする等、社会に与える少なからず影響を与えることがあると思う。保護するレベルの文化財なのか既に発掘されたレベルの文化財なのかをしっかりと見極めるシステムを作してほしい。
- 区ごとの文化財保護はボトムアップ体制にし、市全体で取り組むのは県や県外まで巻き込んだ大きな企画が必要。

【教育委員会の考え方】

- 指定文化財の取り扱いにつきましては、「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」に基づき適切に取り扱ってまいります。
- 社会インフラの問題は教育委員会のみでは対応できる部分が限られるため、関連部局並びに関係機関と情報共有を進めてまいります。

5 その他

(1) 記述・表記に対する意見（11件）

○分布図等の凡例が分かりにくい。

○名古屋市役所本庁舎に関する記述を充実させてほしい。外観意匠に加え、階段の大理石、壁面タイル、円形議場等の内装についても記述するべき。また重要文化財に指定された旨の記載が必要。

○「杵」の用語の解説があった方がよい。

○「身近なまちの文化財」については、「屋根神」など書かれている言葉自体、知らないことがあったりして、なかなか読み進めるのが難しかった。

○「なごや歴まちサポーター」に登録された方の人数、具体的な活動内容や、今後の活動の方向性があった方がよいのではないかと。

他 字句修正意見6件

【教育委員会の考え方】

- 修正が必要な箇所は適切に修正を図ってまいります。
- 資料の内容を深める作業は、今後も継続してまいります
- ふりがなを増やし、語句の補足を行いました。